

受け手が少ないという現状もある。  
現在の審議会等の参画率は14・3%（昨年15・4%）である。女性職員の管理職参画率は14・5%となっており、昨年度の構成比率と比較すると2倍以上になっている。

（総務部長）

**Q** 公募などはしているのか。

**A** 男女共同参画推進委員は公募している。他は調べて回答する。

（人権・男女共同参画推進室長）

**A** 4月からは女性の活躍の場を広げるため県などへ女性職員を多数派遣する。

（町長）

○NPO法人について

**Q** 町の総合計画にあるように、行政と町民は協働していかなくてはならないと思う。NPO法人の設立などに支援していく考えなどあるか。

**A** 境町にはNPO法人は7つあり、公共の担い手として期待されている。経営方針など課題もあるが、協働のまちづくりを進めることは重要と考えている。

（秘書公室長）

**Q** NPO設立の手続きは県などで面倒なところもある。設立などの相談の窓口などできないか。

**A** それぞれの部門で対応しているが、1本にできるよう検討したい。

（秘書公室長）

**A** 町の活動の中で請け負える部分をやっていききたいと思う。

（町長）

議席10番

田山 文雄 議員



○国土強靱化地域計画の策定に向けた取り組みについて

**Q** この「国土強靱化地域計画」の策定については、今後も発生するであろう大規模自然災害等から町民の生命、財産を守ることを最大の目的として、そのための事前

の備えを効率的かつ効果的に行うとの観点から、早急に策定・公表するべきであると考えます。

そこで、当町においては、いつ頃を目途にこの「国土強靱化地域計画」を策定しようと考えているのか、またその内容等についてはどのようなものを検討されているのかお伺い致します。

**A** 当町においては、県の国土強靱化地域計画の概要や近隣市町の動向も勘案しながら検討していきたい。

（総務部長）

○若者の夢へのチャレンジを応援する取り組みについて

**Q** 学生を中心に若者が将来の夢を実現するためのチャレンジに対して、自治体として助成金を支給するなど、若者を応援する取り組みを行う自治体が出てきています。子どもや学生の夢を育み、夢へのチャレンジに対し、地域の魅力創造に重要な施策と考えられます。当町においても、こういった事例を参考に若者の夢へのチャレンジを応援する取り組みを

検討・推進していく必要があると思いますが当町としての考えについて。

**A** 当町として、政策コンテストを開催し採択した提案を、町の施策に取り入れるなど、先進地事例も参考にしながら、鋭意、研究と検討を進めていきたい。

（参事兼企画経営課長）

○脳脊髄液減少症の周知の取り組みについて

**Q** 今年4月に保険適用される予定と併せて、小児の「脳脊髄液漏出症」の研究も開始される予定となります。

この病気は、交通事故やスポーツ障害などで身体に強い衝撃を受けたときに、脳脊髄液が漏れ出し、減少することで、慢性的に苦しむ病気です。医学的にもまだ余り研究が進んでおらず、多くの患者が苦しんでおります。平成19年5月に文部科学省から、学校におけるスポーツ外傷等による後遺症への適切な対応についての通知が出されていますが、こういった実情も学校関係者に対し、周知活動が必